

鞍装古寶

和鞍一

七

内閣文庫			
架	冊	號	類
三	一	一七二	和書
五	二	一七三	
函			

内閣文庫			
架	冊	號	類
五	二	一七二	和書
四	一	一七三	
函			

内閣文庫		
番號	和	17217
冊數	12 ( 7 )	
函號	154	174



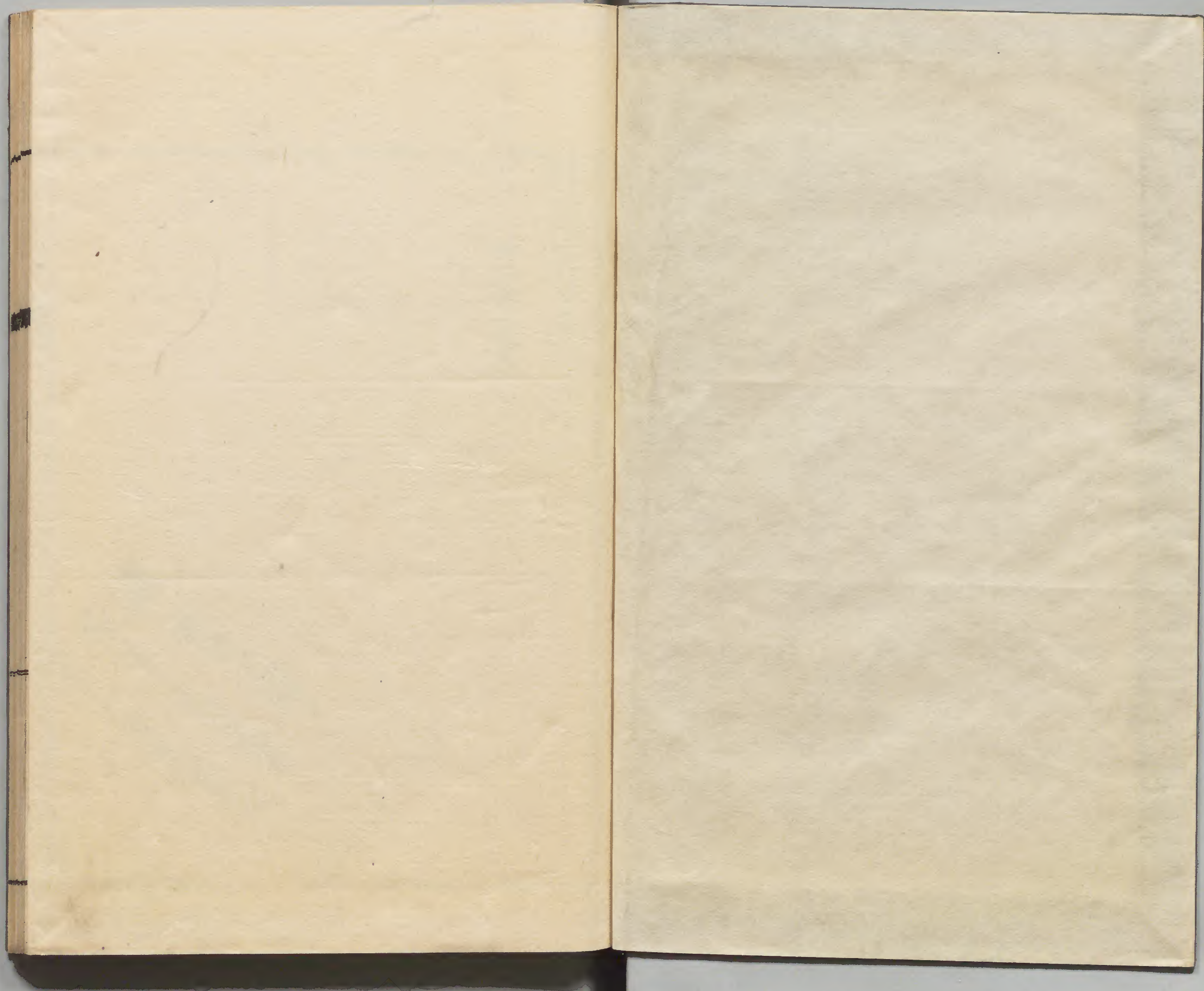
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

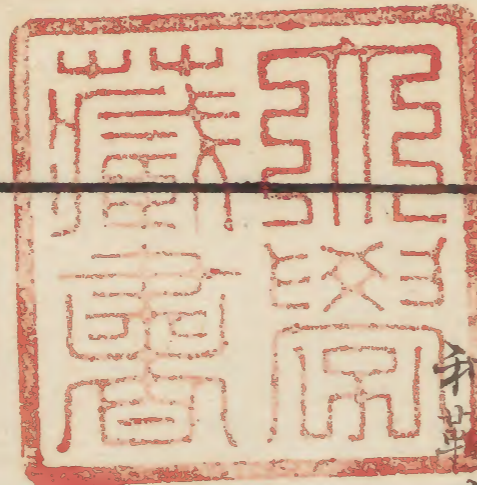
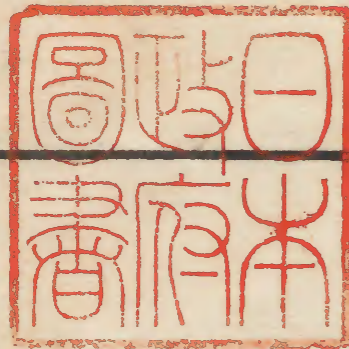
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak







鞍裝古實卷第二

鞍裝古實卷第二

淺草文庫

鞍装古實卷第二

和鞍裝飾

栗原信光著

和鞍ヤマトクラと云ハ元唐鞍ニ對シテ呼ル糸イトハ  
其ノ實ハ神代ヨリ相承セテ皇朝ノ鞍ナリ  
兵士常用ノ鞍モ軍用乃鞍モ強チ子別チハ  
なカナママシシムムヤヤトト知チララルル如ニ何レムト云フ子皇朝  
カ威カ武ウヲト以テ治國ノ大本トカシレ志シハ  
邊鄙不服ノ叛民あるトモ天子親ラ

兵士を帥ひて征伐かゝりて皇孫の尊の  
アシハラオカツニ 葦原中臣を平治かき勢ら後一故事は如く  
 延喜左馬寮式に載ら後一御鞍と云は天子  
 御用ひあるへき不形ふも鐵籠を用ひまう  
 と後此に形ら以鐵籠よりけ脊履うの志を  
 之のや力革障泥より軍陣の物と異かると  
 かしゆく女孺乃鞍は本籠を用ひら後一  
 小く鐵籠の軍陣の物と教とも形明らか  
 と云へ一御鞍とては皇朝至尊服御の裝飾

かりもゆとも和鞍裝飾の標幟と云へ一籠  
 ふも物具装束抄に和鞍具と云も乃を攀て  
 橋四指手 表敷 表腹帶 切付 口位豹入  
 位虎 大滑 同糸 籠 大滑の時壺籠切付の  
 時舌長籠 轡 手綱 公卿蘇芳後教上人棟  
 後 尺泥障 切付の時用く大滑の時不用  
 とも也延喜式に御鞍に古籠を用ひ走馬鞍  
 子大壺籠を用ふと云御鞍に泥障ありく走  
 馬鞍に泥障なく蓋走馬に大滑を用ひく

御鞞を切付たるか故と問ゆ志か也は飾抄  
子行幸又ハ御襖前駟齋宮入野宮齋院御襖ノミヤイリ  
等の例を條舉して故實を改々せらゆ一  
其の源を考索せらるる及ハ此從其の末  
みずのよびく中長有識の學所かう物也共  
六乃裝飾今も今も衣冠貴介の具く一兵  
士甲冑の乗用も充かく一あく曲説も  
とあらいとたる雞肋もひく一と云へ  
御鞞 至尊乃服御九人の知へま如も非以

と云とも天平の御鞞今も東大寺に現存以  
真物を拜觀せと談ハ其詳なるを知  
也とも數にありと然も白木形つと云ハ疑  
らくも盧舎那佛へ奉らむ一物ならん左馬  
寮式ハ御鞞ハ奏請く内匠寮より打立造り  
送ると云ハ内匠寮より他ふと問ゆ又木  
二寮ハ鞞二具伊勢太神宮九月十日奉造進  
とあるは木五寮より二人を隸とせとも御  
鞞ハ内匠寮より奉仕とる一とあり然る

家草の長二尺以上廣一寸のもの乃て内務寮  
より請く鞍橋を結ふと云ふは伊奈を請と云ひ  
常の如く口處結ると云へしは鍔鐵二延半  
和炭七石漆一合二七人とも也二延半は昔  
乃八斤口兩分ふく今乃一貫口百九十錢  
六分二釐又毫方り今加賀掛乃上品大抵一  
貫錢許もあるへし物もは御籠乃大小も准  
志く知へし 鑢鐵一延和炭之石漆又勺二  
十人ともあり一延は昔の二斤又兩ふく今の

八百九拾六錢二分又釐形り 鞆皮奉請と

あまは時々乃星好ある故方りし著緒は  
緋草みく縫糸は緑絲一兩とあり今乃二石  
七分又釐は高布六尺八寸ハ裏乃料と  
同の如し乃分之二尺二寸又分ふく幅  
一尺九寸あり生絲丈一兩今乃十一石五分  
又釐苧一兩口朱今の口分七釐又毫を  
以て綴造ふ中へ櫛葉口把を入ふと云ふ  
脊履端錦一尺と云ふ錦幅二尺六寸あるは

寸積二百六十ありヒコリ緑絲一兩二分ヒコリ朱ヒコリ寸積  
縫とあるは今の六匁二分ヒコリ又ヒコリ龍ヒコリたり練絲七  
尺細布七尺信濃調布之八尺寸商布七尺と  
用ふ生絲丈一兩苧一兩一分ヒコリ朱とありは  
鞆袴の分とも云カシバ櫛葉カシバ又把東席アツクシロ一枚と用  
ひく造ると云 鞆袴ヲモツの表錦二尺二寸廣二  
尺六寸ヒコリ裏は緋帛二尺二寸外は練絶ヒコリ  
尺四寸細布四尺四寸商布四尺四寸東席半  
枚ヒコリはるヒコリ一匁とヒコリ緋革ヒコリ形ヒコリ

鐙鞆ハ牛革の長四尺廣三寸乃物ヒコリをヒコリは  
る 力革ハ牛革の長二尺四寸廣一寸乃物  
ふヒコリ他ヒコリふヒコリ一匁ヒコリの分一尺二寸ヒコリひヒコリとヒコリあるヒコリは  
障泥皮裏ハ信濃調布ヒコリふヒコリ一丈三尺ヒコリを用ふ  
と云漆一升二合ヒコリふヒコリぬヒコリふヒコリと云今の障泥と  
同一ヒコリかヒコリぬヒコリふヒコリへヒコリ 鞆ヒコリハヒコリ紫絲ヒコリ一斤ヒコリ又ヒコリ兩  
一分二朱ヒコリ絲ヒコリ鞆ヒコリ絲ヒコリ女ヒコリ十二人ヒコリとあり今乃ヒコリ八十  
五ヒコリふヒコリあヒコリはヒコリ大一斤ヒコリ又ヒコリ兩一分二朱ヒコリとあり  
二百ヒコリ四ヒコリ十ヒコリ五ヒコリ形ヒコリはヒコリ量解ヒコリのヒコリ誤字ヒコリあり



へー 貫鞆ヌキサヤと云ハ 燈鞆ミツツよかけく 鉸具の尖  
を避ふ料なり 猪排草と云々 小腹帯ハ細  
布八尺を相ひ 韁鞆メツナハ練絶一丈二尺細布  
一丈二尺とあり 細布ハ中ふくく 練絶ふく  
包むかるへー 亦是至尊殿御の料の荒坊と  
同也  
走馬鞆ヒシヨク 亦是觀馬射ミケユミゴランの日又位諸王に位流  
辰以と親王乃進タテマツ進むる馬子用ふ鞆をへ  
亦是左右馬寮乃官物もあるへー 又私物

もあるへー 詳ふは内裏式ふまの物くは鞆  
をば大藏省に請とあるは所謂交易雜物の  
よりふくく 常陸鞆橋十具 太宰府黒漆鞆十  
具等の如く 諸國の此物乃交易くく 調庸ふ  
代カハく大藏省に輸イダあるは乃と同也 亦是を  
結ツガるく 洗革アライイカハを以てく 漆之合を以てぬると  
之の物らは諸國より輸とふ 白鞆ふく納む  
るからん 木材の屈カミか杖ヒメかと云を視るく 白  
鞆をく 亦是は能く作ふ故をへー 大壺

鐙を用ふは、大筋管了請とあるは、是も  
諸國より租調小代に輸せし品なり、  
鐵一廷を和炭二石ふく鍛練し漆又勺を  
以てぬふと云也。 鑣ハ御鞍女鞍にも小狭  
一廷を用ひらねば、走馬鞍も又おかし  
ふへきなり、漆二勺とあるは、勺の誤なり  
へし、 韉ハ牛鞞ヒキハダカハ文革一張を以て之具を充  
と云、又着緒ハ洗革を用ひ裏ハ商布六尺を  
用ひ、椀ホソキノアブラ油スリを塗るの上を漆一合に勺を

くぬると云。 脊履サナメ緋革一張を以て二具を  
充と云ハ、端乃料ハを以て、調布信濃調布商  
布乃二品各七尺を用ふと云ハ、大さ布を御  
鞍と違ふてぬふもや。 鞍褥ハ注ぎよ、  
鐙韉ハ洗革とあり、籠ハ鑣あは、力革ハ用  
心を、障泥ハ注ぎよ、 鞞ハ苗三斤ふく  
漆ると云、絲ハ一斤ハ兩一分か朱とあり  
貫鞞ハ洗革を用ひ漆又勺をぬふと云  
小腹帶 韉韉とも小調布を用ふ 接鞞シホテハ

洗革生絲二朱ム造る今乃二分一釐二毫  
八絲形リ 表腹帶調布七尺と云六乃御鞞  
走馬鞞乃二種ト子コり常用と軍陣との別  
と云ふハ又武備を專トふカ被レてハ瞻  
仰トへテ後世縁螺鈿蔀繪螺鈿黒地  
螺鈿沃懸地鏡地カと乃鞞をカふハ華飾  
み流シてハ本意を失ハふリヤ  
縁螺鈿鞞 飾抄子保元元年十二月十七日  
御方違行幸或秘記ハ云鞞縁螺鈿或沃懸地葦鹿

切付淺黄手綱無文革大滑等ト云保元元  
年ハ後白河院御宇形リ内裏ハ好小路西洞  
院高板敷形リ里内裏ハ古實ト考究ハ一  
五人ハ違カふハ葦鹿切付ハ六位乃具  
みハ口位ハ上カ豹ハ口位ハ下カ虎ハ下カ  
なり但ハ此時諒簡ハ也ハ淺黄手綱無文革大  
滑ハ用カらテ形ハ一ハ又飾抄ハ永治元  
年十月御禊女御代前駟乃六位縁螺鈿鞞ハ  
棟ハ乃手綱ハ鞞葦鹿鞞ハ又筋抄ハ藻

壁門院諒園中法勝寺御八講御幸小縁螺鈿  
 壺鐙赤手綱を引ひしと云ふ藻壁門院と  
 以後堀川院妃ミメ介ミ一糸入道太政大臣  
 臣乃女口糸院乃母儀形ナ天福元年四月之  
 日藻壁門院と院辨ニ之上ニ色ニ整ニの年九月十  
 八日御意子依ニ崩御と女院小侍ニの  
 抄の他者中院大納言通方卿又十歳の時  
 今或家藏縁螺鈿乃鞞ニをニニ拳ニ武士乃  
 具ニをニ證ニ以

縁螺鈿鞞前輪



九 十 六 三

全由木



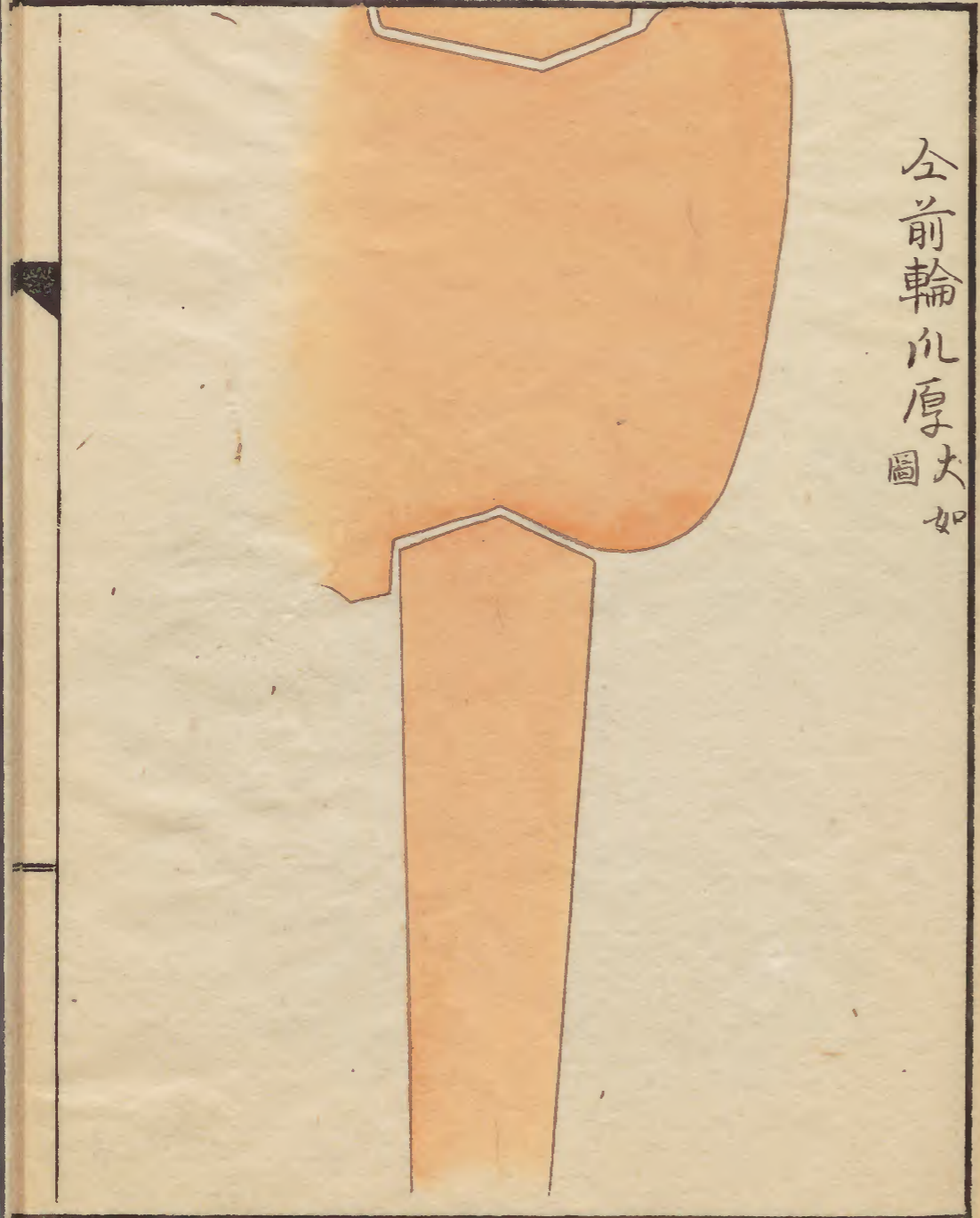
全後輪



一尺三寸三分強

今前輪鰐口丈如圖





全前輪凡厚圖大如

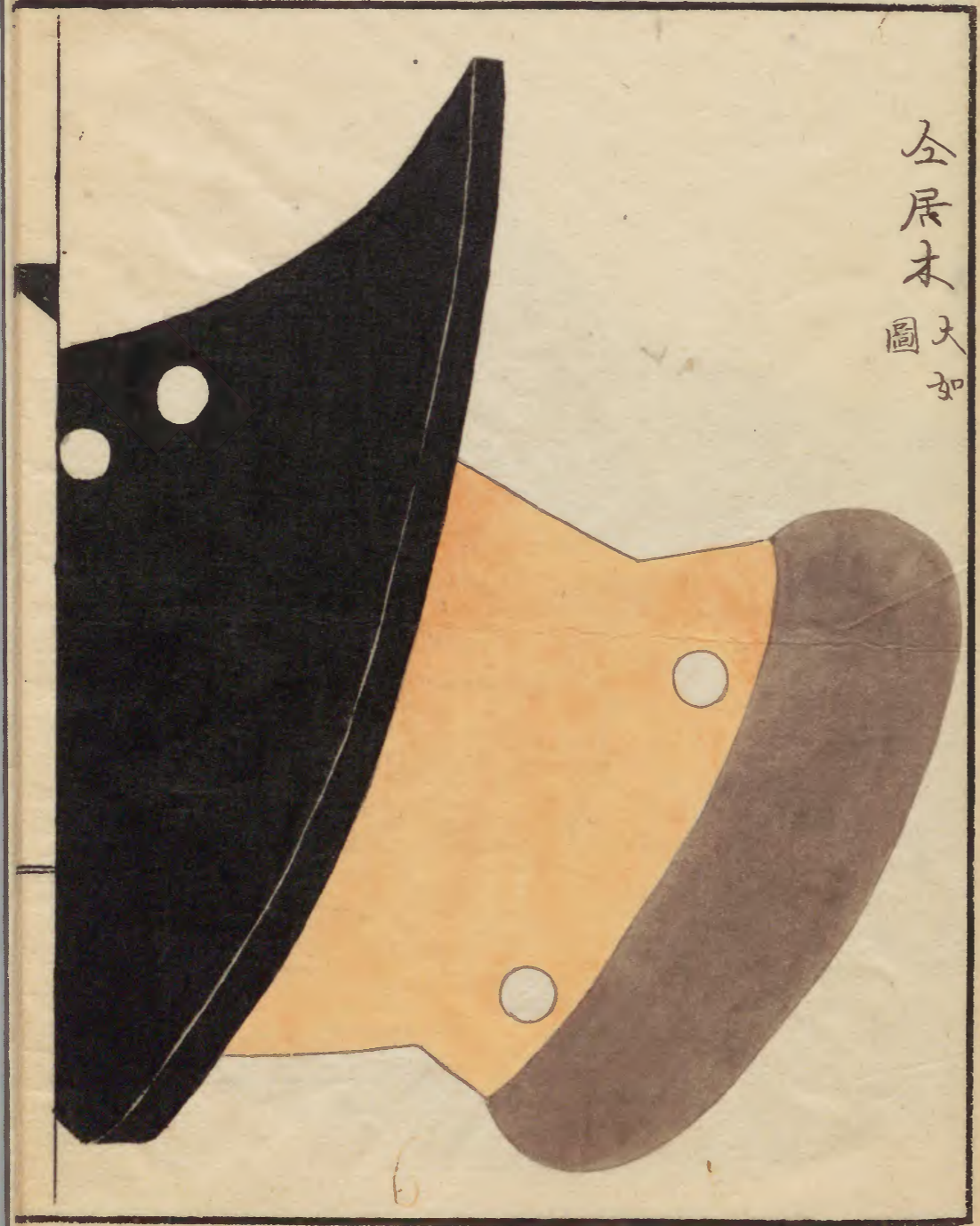


全凡圖大如

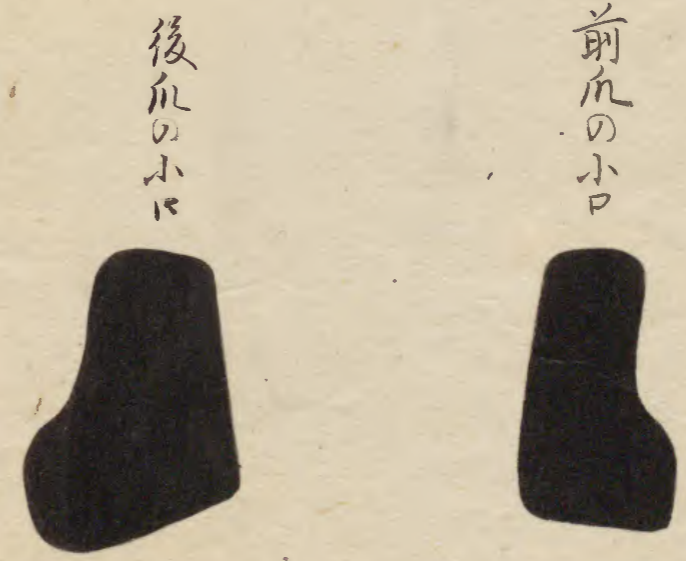


同後輪爪厚  
圖大如



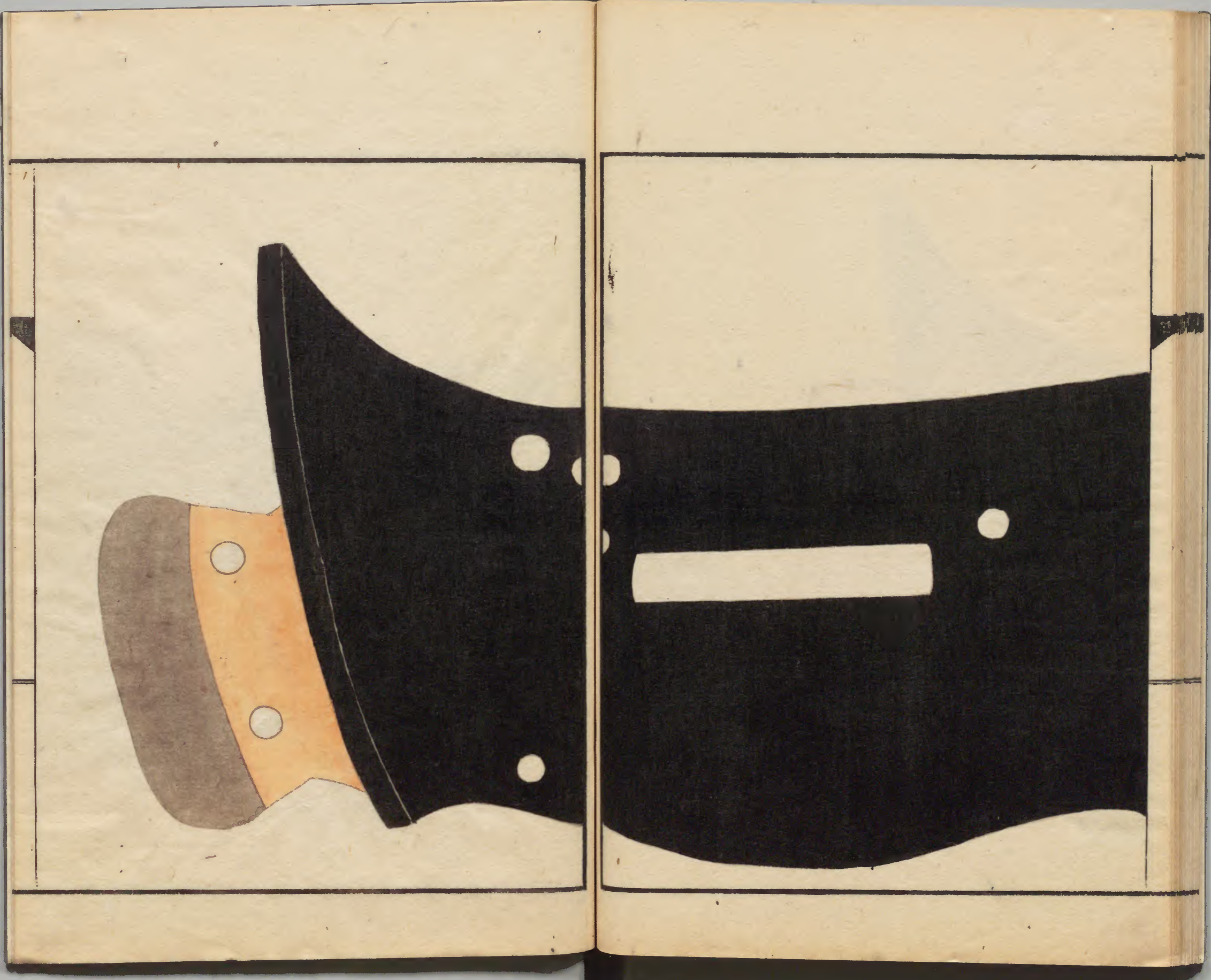


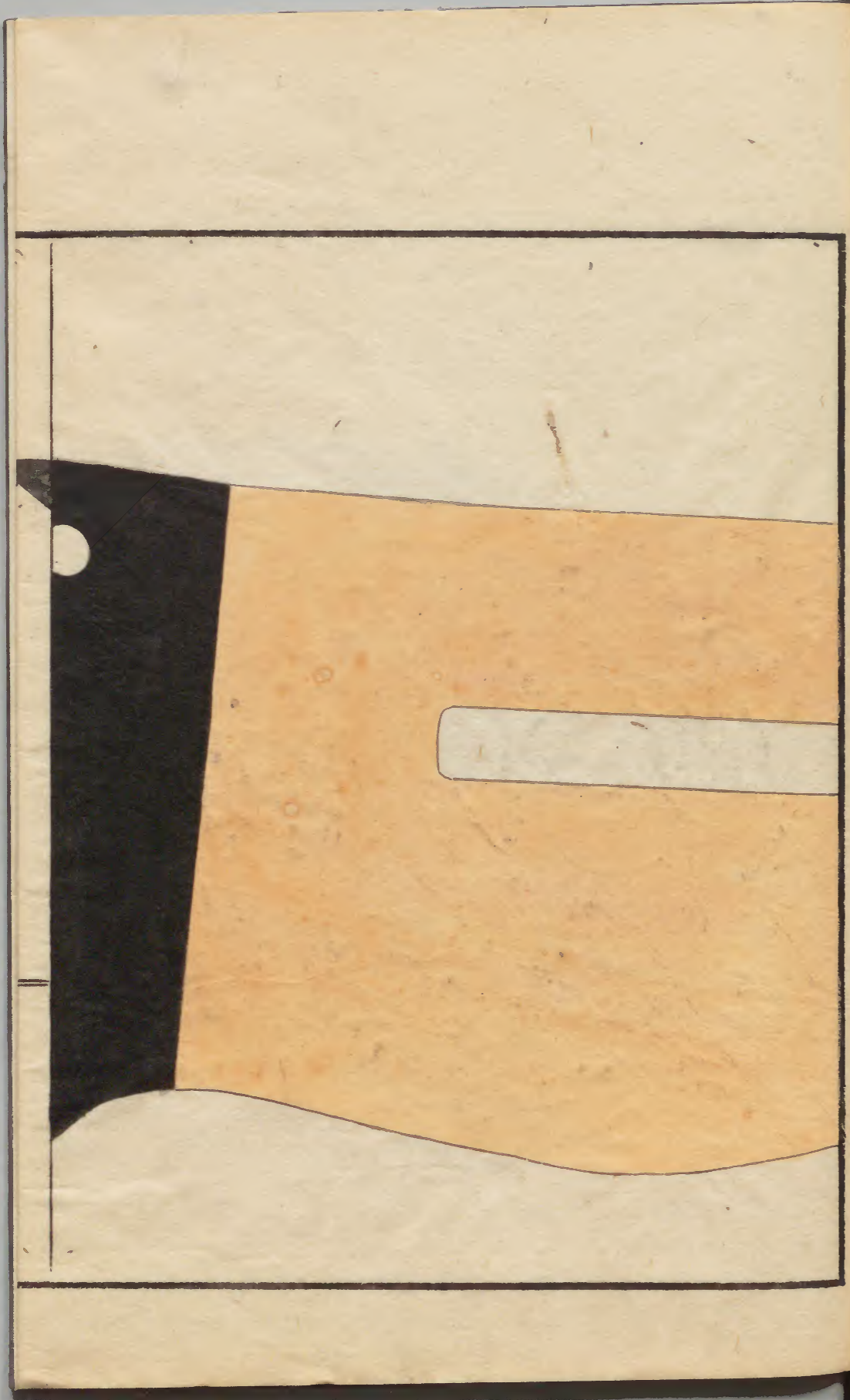
全居木  
圖大如



後爪の小口

前爪の小口





公居木裏  
大如  
圖

